

モニター通信 No. 2

皆さんから寄せられた「モニター通信 7 月分」を紹介します。

「持続可能な社会について思うこと」

～SDGsという言葉を目にしない日ないほど社会に広まっている「持続可能な社会」について、ご自分の取組や社会に対するご意見などをお書きください～

モニターから No. 1

最近テレビやさまざまなメディアでSDGsという言葉を目にします。現在世界中にある環境問題、差別、貧困、人権問題などの課題を17の計画や目標としてかかげたものだそうです。持続可能な社会ということらしいですね。なんとなく漠然とはわかっていても17全部を全てあげられる人はいるのでしょうか？

私には世の中のほとんど全ての問題がSDGsのように思えます。その言葉が使われるようになるはるか前から環境、差別、貧困、人権などの問題については意識して考えていたし今更という違和感があります。企業などもSDGsを意識してやっています！みたいな企業広告に使っているような気がします。当たり前のことを今更言っているような気がしてしまいます。

モニターから No. 2

SDGsは国連サミットで2015年9月この先の世界を今以上に良くするために世界の人・全員で協力して解決したい目標との事です。これは世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題などの課題を世界のみんなで2030年までに解決していこうという解決目標であります。17項目を定めています。なお、持続可能なというのは「人間の活動が自然環境に影響を与えず、その活動を維持できること」を意味しています。SDGsの取り組みは各国で取り組んでいますが、わが日本国でも2016年5月SDGs推進本部の設置、2017年「ジャパンSDGsアワード」を発足し活動をしています。SDGsの17の目標達成には国を挙げての活動により達成可能と思いますが勉強しているうちに個人の参加も可能ということが解りました。それは私たち個人が日常意識し実施することでSDGsの目標達成に貢献できることです。

自分で出来る実施可能な項目を順に並べて見ました。紹介します。

(1) 節電・節水を心掛ける。

使用していない家電の電源・シャワーの出しっぱなしにしないこと。無駄遣い無し。

SDGs目標13(気候変動・その影響軽減するための緊急対策)

(2) フードロスを減らす。

食材・食品の食べきれるだけを買うようにして廃棄されるフードロスを減らす。

SDGs目標12(持続可能な消費と生産)

(3) 再利用・リサイクルを積極的に行う。

ゴミを減らし再利用やリサイクルを行う。

SDGs目標13、14、17(14:海洋資源の確保、17:陸上資源の確保)

(4) 災害に対する備えをしておく。

災害に対する備えとして家具の置き方の工夫、避難経路の確認、連絡方法 飲料水などの備蓄。

SDGS 目標 11 (持続可能な都市および人間居住の実現)

個人参加可能な各項目は消費生活モニターとしてテーマ報告した項目に関連しました。

- ① フードロスが減らすについては令和元年2回目の報告をしましたが食品ロス削減に向けゴミの処理を土浦市の指導に従い実施しています。
- ② 再利用・リサイクルの実施については令和4年2回目の報告をしましたが日本の恥ずかしい行為を反省し土浦市の指導とともに資源ごみとして出しています。
- ③ 災害に備えることについては令和4年度3回目の報告しましたが一番怖い地震について持ち出し品、備品、水源確保、避難先の確認等を行い万一について備えています。
- ④ 節電・節水についてはウクライナ・ロシアの戦争・世界的気候変動を考慮して絶対的に節約に努めまずは節約に努めています。

以上、個人で出来る取り組みについては消費生活センターへの報告済みでありましたがSDGsと共に実施しています。今後も持続可能な社会へ参加できるよう努めていきたいと思えます。

モニターから No. 3

SDGsは2015年9月の国連サミットで、加盟国の全会一致で採択された2030年までに、持続可能で発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいるとのことです。貧困、不平等、格差、気候変動による影響など、世界のさまざまな問題を、根本的に解決し、すべての人たちにとって、より良い世界を作るために設定された世界共通の17の目標です。

「持続可能」とは、将来の世代のための地球環境や、資源が守られ、今の状態が持続できることです。経済発展だけに取り組むのではなく、環境や社会が抱える問題バランスよく取り組み、その根本的な解決によって、世界を持続させることはSDGsでは目指しています。

この数年のコロナの流行により、世界の諸国で、感染がおこり、人々の健康、社会活動、経済活動にさまざまな影響を与えて、世界が丸い一つの地球に住んでいる点に影響しあう一つの共同社会ということを感じました。従って、このSDGsはとても希望のあるより良い未来をつくろうとしていると思い、私の今できることを精一杯実行したいと思えます。さしあたって主婦としての観点から、毎日のように出るごみや捨て方を注意し、地球温暖化を少しでも食い止めたと思っています。生ごみの再利用や資源ごみをうまく出す。プラスチックは大量になってきているので、きちんと出す。紙をなるべく再利用されるよう出す。買い物の時は袋をもらわない。衣類等はいらなくなったら、ぼろ布としてカットして利用する。古いものも大切に使う。町内のごみ捨て場に出す時は一軒でも、ルールを守るとほかの人々も真似をしてだんだんそれが当たり前になってくる。近所の道あたりもだんだんきれいになってゆく。今はごみ捨てが大切な一仕事になっていますが、この心がけが地球の温暖化を守ることだと思えると頑張らざるを得ません。買物も余分なものは買わず、あるものを大事にすることにしました。

町内では赤十字、社会福祉協議会、赤い羽根歳末助け合いの募金は皆でしています。その他キリスト教の教会関係のカリタスジャパンで募金は世界の貧しい人々のためにということで皆で

しています。一人一人の力は小さくても、いろいろな人が協力すれば、明るい未来になると思います。毎日の小さな事を大切に実行したいと思います。緑豊かな心温かい環境は、人々が成長するのに大切でしょう。冷たい社会ではなく心がホッとする社会は将来の日本であって欲しいと思います。

モニターから No. 4

SDGs、つまり持続可能な社会について、実際のところあまり知らなかったというのが事実です。まずはこのSDGsを理解することからと思い、これを機会に調べてみると17の目標設定があるということを知りました。その中でも、しいていえば「住みつづけられるまちづくり」という目標が一番身近で、取り組みやすいのではというのが感想です。

まず1つ目は節電・節水等です。もうすでに実行していますが、使用していない家電の電源を切ったり、水を出しっぱなしにしない等です。2つ目はマイバッグ・マイボトルの活用でしょうか。これはプラスチックの削減になりますね。3つ目はフードロスが減らすこと。これも常に心掛けていることの1つです。買った食品や食材は使い切ることを目標にしています。4つ目は再利用やリサイクルに協力することです。ゴミの分別はもうすでに浸透していることかと思っています。

日本は訪日外国人が驚くほどクリーンで自慢できるほど素晴らしい国です。私達に出来ることは少ないですが、少し意識するだけで生活に取り入れることが可能です。できることから取り組み、徐々に増やしていけたら、もっともっと良い社会が作れるのではと思います。

モニターから No. 5

数年前からSDGsと耳なれない言葉が色々なところで、皆が解ったような解らないような顔つきで話題になっていた。"SDGs、何それ！！"という質問さえもはばかれるようになってきた頃、政治家達の背広の襟もとに虹色のクレヨンの色分け表のようなピンバッチがつけられるようになった頃、ようやくSDGsの情報が私の周りにも入るようになった。

子供向けの絵本のような冊子をはじめ、SDGsの意味・いわれが解りやすく解説されているプリントも手に入る機会も増えてきた。各企業もSDGsとうたって業績を伝えだした。それらを見て世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題と言った課題を世界の皆で2030年迄に解決していこうと17の目標と169のターゲットをかかげたもののようにだと理解した。そして持続可能（人間の活動が自然環境に悪影響を与えず、その活動を維持できる事）な社会を築いていこうという意味だとおぼろげながら解ってきた。

だが、2017年に開催されたダボス会議（2020年スウェーデンの環境活動家グレタさんも参加している）の中で話し合われたようだが、5年以上たっているのにSDGsという言葉が先に走り出すばかりで今一つわからない。

まずは、17の目標。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現

6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーを皆に、そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤を作ろう
10. 人・国の不平等をなくそう
11. 住みつつけられるまちづくり
12. つくる責任・つかう責任（3R・・・ゴミの減・再利用・資源化）
13. 気候変動の対策
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公平をすべての人に
17. パートナリシップで目標達成

因みに日本のSDGs達成度は2020年18位（目標達成4・9・16、重要な課題あり1・5・7・10・12・13・14・15・17）

私達はいったい何が出来るのだろうか。いや何をすればよいのだろうか。いまだに大きすぎる課題を前にしてうなっている。

モニターから No. 6

「持続可能な社会」の実現に向けて大切なことは、個人の意識を変えることが必要だと感じます。私の生活圏において、徒歩で行けるコンビニは2か所。車で行く半径1.5キロ以内にスーパーは何か所あるでしょう。思いっくだけでも、スーパーは2か所、ドラッグストアにおいては4か所もあります。それぞれの店舗で食料品の廃棄が全く出ないということはないと思うので、それを思うだけでも胸が痛みます。季節の行事の時のスーパーの品ぞろえにおいても、欠品があるものなら「品ぞろえが悪い店だ。次から購入は控えよう」と考える人が少なくないと思います。ここを「あら、売り切って素晴らしいお店ね」と意識を変えることはできないでしょうか。こんな風に考える人が一人でも増えれば、食品ロスが減ると思うのです。製造する事業者側も売り上げを伸ばそうとせず、食品ロスに着目して生産してもらいたいものです。

日本の食品ロスは年間で約600万トン、その4割が家庭から排出されているとのことに驚きを隠せません。我が家では賞味期限内に食べきる量を購入するように心がけていますが、実家から持たされたもの（あまり食べない缶詰や瓶詰）もあり、賞味期限が切れそうになることもしばしばです。この実家に届く缶詰や瓶詰は、お中元やお礼の品としてもらったものです。この心遣いは日本人特有のものだと思いますが、食べないものを渡すのは本当に必要なことなのでしょうか？

私個人が出来ることとして、ごみの分別・リサイクルを徹底的に行うことを決めています。ティーバッグの水分をギュッと絞ってゴミに出すだけで、億単位の焼却費用が変わると聞いたことがあります。些細なことでも一人一人が心がけることで、大きな成果になるのだと信じて行動しています。（その他にも簡単に出来そうなエコ活動があれば、チェックリストなどでどの位意識しているか判断できたら面白いなあと思います。）

次の世代の人がより良い暮らしを送れることを念頭において行動をしていきます。

モニターから No. 7

私は内容については良く理解出来ませんが、17項目の様々な内容についてそれぞれ数値目標を掲げて各種団体、個人も含めて努力している事と思われます。大きな事から小さな事まで誰でもが身近な項目について、これから地球規模での取り組みが求められていると思います。

自分の身近に関係する事ですと、エネルギー関係、特に電力の需給のバランスとその取り組みが焦点と考えます。福島第一原発事故以来、太陽光発電等、自然エネルギーが脚光を浴びているが、環境問題にばかり目を向けて、そのコストや恒常的供給については、まだ途上段階と思われる。これから夏本番の電力需給についてエアコンのフル稼働による電気料金の高騰には、誰もが頭痛の種と思われるが、そうかと言って現在休止している原発の再稼働には、原子力規制委員会の安全性の承諾を得ても、地元住民の理解が不可欠のようなので、運転再開にはまだこぎ着けないのが現状、実態と思われます。

しかし庶民感情として思うのは国（経産省）が、安全のお墨付きを出した原発は再稼働すべきだと思います。一部政治家が政争の具にせず、大所高所から判断して欲しいと思うと同時に、実際に原発を運転する電力会社は、もう一度初心に戻り、禪を締め直し、もう後戻りは出来ないんだと言う強い気概で臨んで頂きたいと思います。それと同時に前段で話した自然エネルギーの比重を高めて行く方向性を、実施すれば良いと考えられます。

モニターから No. 8

SDGsの大きなスローガンの中で、国連の「ナマケモノにでもできるアクションガイド」があります。

レベル1 ソファに寝たままできること

例えばSNSのチェックしながらでも、気候変動防止に取り組む企業への“いいね”は押せます。シェアだけでも効果あります。

レベル2 家にいても出来ること

エアコンの運動効率を高める為のいろんな工夫が温室効果ガス発生抑制につながり、電気代などの節約にもなります。

レベル3 家の外でできること

たとえばエコバッグの必ずの持ち歩きやプラスチックゴミを減らす努力、これは海の豊かさにつながります。

レベル4 職場でできること

もし職場で差別などあれば、勇気を持って相談窓口に訴える。また周りの人や後輩が悩んでいたら相談に乗る。これは目指す働きがいのある職場環境の実現につながります。小さな取り組みではありますが、これらはナマケモノの私には無理せず出来る事だと思います。近い将来取り組みたい事として、ボランティア活動の参加です。自分自身にSDGsに貢献している実感を持たせ、持続可能な世界への実現にさらに取り組めるようにささやかなアクションではありますがまずは一歩からです。

モニターから No. 9

SDGsとは、世界中の人々が平等かつ安全に生きることが出来る社会を作るための目標で、2030年までに達成することを目指すとする。17種類の目標があり、それぞれが現在の世界

が抱える包括的な課題で、人権、経済・社会、地球環境等、様々な分野にまたがっている。2021年に発表された国際レポートでは、日本では達成度ランキング世界18位で、3つの課題で目標に達しているに過ぎない。あと7年で目標を達成できるのか、官民一体となって取り組まなければならないと痛感する。

私たちに出来ることは何か？従来からやっていることだが、フードロスを減らすこと、ゴミのリサイクルやリユースをすすめること、節電・節水に努めること、地産地消に協力するような買い物をする、環境に配慮した行動すること等だろうか。新たに取り組み始めたのが、地球環境に配慮した「認証マーク」の付いている商品を買うこと、出来るだけ公共の交通機関を利用することだ。近場の買い物は徒歩で、遠くに出かけるときは電車を出来るだけ利用しよう心がけている。駅まで徒歩で20分位だが、環境に良いだけでなく運動にもなり、一石二鳥だと思っている。

「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した。化石燃料の利益と気候変動に対する無策は容認できない。人類の責任だ。」と各国に対策強化を訴えたグテーレス事務総長の言葉に強い、衝撃を受けた。全くその通りであり、政府や企業、個人がどうすべきか、真剣に考え方策をとるべきだと痛感する。

モニターから No. 10

unicefが示すSDGsの17のテーマのうち、消費者の目からは12番の「作る責任・使う責任」のテーマが身近と思う。ほかのテーマは、国・行政があるいは大きな団体が関与し主導しないと動かないあるいは我々一般消費者としては積極的には関われないから、モニターレポートとしては取り上げにくい。もちろん、それらに無関心ということではなく、参加し協力できることは多いのであるが。

ここでは12番のうち特に「使う責任」についての貢献を考えたい。土浦市消費生活センターのスタッフは先見の明があって、過去にフードロスに関するモニターレポートを募集したことがあるが、unicefの求める持続可能な社会のための努力目標の一つがまさにそれであって、世界には一粒の食物もない地域・集団がある一方、食物を捨てている地域・集団がある、しかも食物と知りつつ意識して捨てている。「使う責任」は「(作った以上)食べる責任」と取るべきであろう。

周辺にあふれるプラスチック製品にも関心を持つべきであろう。わたしはアメリカとヨーロッパ(以下、外国と書く)に住んだことがあるが、日本はプラスチックの製品の消費が外国に比べて多すぎると思う。例えば、外国のスーパーマーケットでは、ほとんどの食品が量り売りで量った食品を紙に包んであるいは野菜ならそのまま手渡しで買うのに、日本ではすべてパックに詰めてあるものをそのまま買う。そのパックでトレイあるいは透明容器あるいはプラ袋を使っている。これは売る(「作る」)責任を問わねばならない。例はたくさんあるが、例えば、牛肉を買うとき、すでに発泡スチロールにパックされたものしか買えない。消費者が100gほしい時でも、売るほうは130g売ってしまいたいから130gのパックを作っている。これを使うと肉料理は必要以上に多めにできてしまうから、その料理を食べきれなくて、残し、やがては捨てるということにつながる。すべての食材について言えることである。

わたしはできる限り、一個売りのジャガイモ・玉ねぎ・・・を買い、残さないように調理し、レジ袋は使わない、レストランでストローは使わない等、消費する側の努力をしているが、売る

側(作る側)も上記の肉の売り方を考え直し、魚を売るのに、アジ一匹を発泡トレイに入れて透明フィルムで包んでパック詰めで売る、小松菜・ほうれん草など野菜をビニール袋に詰めて売るなどということはやめてほしいと思っている。こういう売り方をするから、そのパックや袋に入らない魚、野菜は規格外とか言われて売り場に並べてもらえず、捨てられることになる。「作る責任・使う責任」は考えることがたくさんありそうである。

「持続可能」のためには地球表面で作られる食物を大切にし、地球内部から取り出す(限りある)石油を長持ちさせるにはそれから作られるプラスチック製品の無駄遣いをなくす努力が求められる。意外にも、レジ袋を有料にして使用者を少なくしようとしたのは政府主導であった。それは消費者に言っただけでは世界的にもプラスチックの使用量が多い日本でなかなか使用量が減らず、「使う責任」を問うたのであろう。それなら、「作る責任」も問うということで、プラスチック包装での販売を減らすことをも主導すべきである。消費者としては努力するが、それだけでは限界がある。

モニターから No. 11

「持続可能な社会」を目指す目標はさまざまな分野にわたっていますが、その中で日本だけでなく世界的に見ても少し遅すぎたのではというものがあるように思います。たとえば「13 気候変動に具体的な対策を」では、気候変動のスピードを緩めるための行動が提唱されていますが、CO₂の排出を抑制することは難しく、地球温暖化は止められそうにありません。

個人的にエコバックを使う、フードロスをなくす、ゴミはきちんと分別するなどのことを行っても、大量生産、大量消費の世の中でどれほどの効果があるのだろうか、自分のしていることはただの自己満足ではないかと思うことがあります。だからといってエネルギー源として原子力は使いたくないし、自然エネルギーは供給量が少なく、また供給が不安定です。現在の豊かさをいくらか犠牲にしないと温暖化やそれによる災害の多発は止められそうにないのではと思います。

国、そして世界が一丸となって取り組まないと効果がありませんが、経済発展を犠牲にすることによって反発する国は少なくありません。どうすればいいのか、先ず一人一人ができること、国際的な協調を含め国や社会ができることを整理して提示し、実行すること、そしてこのままでは人間の活動は地球に恐ろしい変化をもたらす、地球は人の住みにくいところになると誰もが認識することが必要かと思います。